

サステナビリティ

サステナビリティに対する基本的な考え方

シャープは、創業以来の精神として「広く世界の文化と福祉の向上に貢献する」「全ての協力者との相互繁栄を期す」の経営理念のもと、社会やステークホルダーからの期待に応え、当社と社会の相互の持続的発展を目指すことをサステナビリティに対する基本的な考え方としています。

この経営理念・経営信条^{※1}を具体化するために、グループ企業の行動原則として「シャープグ

ループ企業行動憲章」を、全ての役員・従業員の行動の規準として「シャープ行動規範」^{※2}を定め、グループにおけるサステナビリティの基本方針として周知徹底しています。

※1 経営理念・経営信条は、下記をご覧ください。
<https://corporate.jp.sharp/info/philosophy/>

※2 シャープグループ企業行動憲章、シャープ行動規範の詳細は、下記をご覧ください。
<https://corporate.jp.sharp/info/charter/>

サステナビリティに関する方針と推進体制

2016年8月に、社会や環境に与える負荷を低減していくために特に重要と考える取り組みテーマを「SER(Social and Environmental

Responsibility:社会環境責任)」と定義し、SER方針を定めました。

SER方針

- ① 従業員の権利を重視し、従業員の健康及び安全を確保する。
- ② 事業活動及び製造過程における環境責任を果たす。
- ③ 国際標準、法規制、顧客の要求に基づいたSERマネジメントシステムの構築を行い、運用する。

また、2015年9月に国連で採択されたSDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)の達成へ貢献することを2018年度より中長期ビジョンに据え、「事業や技術のイノベーションを通じて社会的課題を解決する」と「SER方針に沿った施策(SER施策)の推進を通じて事業活動による社会・環境に対する負荷



を軽減する」を両輪として取り組んでいます。

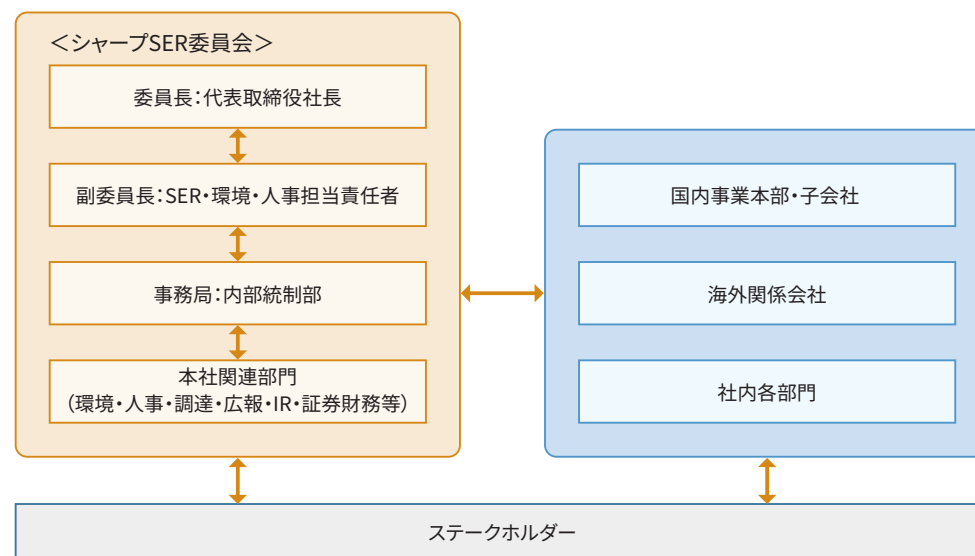
今後も、ESG(環境・社会・ガバナンス)分野の取り組みを強化し、当社のESGレーティング・格付の向上を図りながら、持続的成長を支える強固な経営基盤を構築し、サステナブルな社会の実現に貢献していきます。

シャープは、これらの方針を実行施策レベル

に落とし込み、PDCAサイクルでマネジメントしていくため、2016年に経営幹部、環境・人事・調達などの本社機能部門、事業本部・会社などで構成する、シャープSER委員会を設置し、方針やビジョンの徹底、SER施策についての審議・推進、社会的課題に関する最新動向の共有などを実施しています。

<サステナビリティ・マネジメント体制図>

2021年3月現在



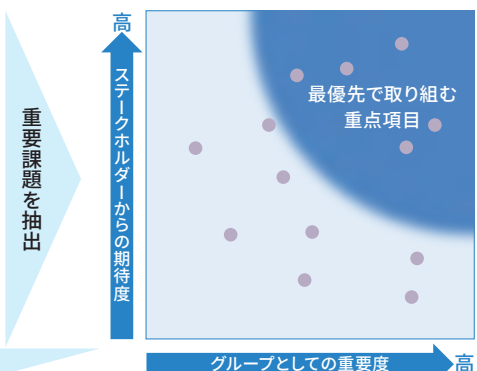
サステナビリティ

マテリアリティ(重要課題)

グローバルでの社会的課題解決を目指した国際的な長期目標が相次いで発表され、またグローバルサプライチェーンにおける強制労働等の人権問題への関心の高まりなど、企業の取り組みへの期待もますます高まっています。こうした背景から、グローバルな社会課題解決に向けた目標達成への貢献を目指し、中長期的な視点でシャープグループにとってのマテリアリティ(重要課題)を特定し、サステナブル経営推進のための取り組みを行っています。

経営方針・事業戦略
- 経営理念・経営信条 - Be Original. - 事業ビジョン - 中期経営計画 など
国際的なガイドライン・原則
- 国連グローバル・コンパクト(2009年6月に署名) - SDGs - ISO26000 - 国連世界人権宣言 - 国連ビジネスと人権に関する指導原則 - OECD 多国籍企業行動指針 - RBA^{※1}などの業界行動規範 など
ステークホルダーからの期待
- 対話を通じたステークホルダーの声・意見 - 事業活動によるステークホルダーへの影響評価 - ESG機関等による各種調査結果 など

マテリアリティの特定に当たっては、抽出した重要課題を「社会にとっての重要度(ステークホルダーからの期待度)」と「グループとしての重要度」という2軸の観点でマッピングし、最優先に取り組む課題を特定しました。また「ガバナンスの強化」を全ての企業活動の基盤とし、「イノベーションによる社会的課題の解決」と「事業活動に伴う社会・環境への負荷軽減」の観点で特定したマテリアリティを整理しています。



イノベーションによる社会的課題の解決		事業活動に伴う社会・環境への負荷軽減	
スマートライフ	人に寄り添い よりあなただけの暮らしを実現	人権・労働	・長時間労働の抑制による従業員の健康・安全の確保 ・ハラスメントの防止 ・人権の尊重
8Kエコシステム	最先端の映像技術を核に 社会のイノベーションを加速	環境	長期環境ビジョン※2「SHARP Eco Vision 2050」に向けた取り組み ・気候変動(脱炭素社会の実現) ・資源循環(循環型社会の実現) ・安全・安心(化学物質の徹底管理)
ICT	ワイヤレス技術やモバイル技術で シームレスな社会を構築	サプライチェーンマネジメント	・サプライチェーン全体でのESGリスクマネジメント ・責任ある鉱物調達
ディスプレイ デバイス	世界NO.1のディスプレイ技術で DXを牽引	ガバナンスの強化	
エレクトロニクス デバイス	独自のデバイス技術で スマート社会の発展に貢献		
コーポレートガバナンス・リスクマネジメント・コンプライアンス・情報セキュリティなど			

※1 Responsible Business Alliance. 責任ある企業同盟の略称。旧称EICC(Electronic Industry Citizenship Coalition)。
2004年にHPやIBM、DELLなどの電子機器の企業によって設立された。電子機器に留まらず幅広い業界のサプライチェーンにおける社会・環境・倫理的課題に対する規範を作成。
※2 P.10をご参照ください。

特定したマテリアリティについては、具体的かつ測定可能な施策レベルに落とし込みモニタリングを行っています。

「イノベーションによる社会的課題の解決」として、2019年度から各事業本部・会社で事業を通じてSDGs達成に貢献するための中長期ビジョンを設定し、その進捗状況を報告・確認^{※3}しています。

「事業活動に伴う社会・環境への負荷軽減」として、年度ごとに「全社SER施策重点施策指針」を策定し、各事業本部・会社において、それぞれの事業にとって重要なものを選択して、SER施策(目標・評価指標KPI、対象範囲、実行計画など)を推進、四半期ごとに自己評価を行っています。

シャープSER委員会では、各事業本部・会社のSER施策の推進状況(自己評価)について継続的

なフォローを行い、全社での推進状況の共有や総評を行っています。2020年度のSER施策^{※4}については全事業本部・会社においておおむね計画通り進捗することができましたが、課題の残ったテーマについては、改善対応策を併せて確認しています。

なお、「ガバナンスの強化」については、各テーマに関する全社会議において取り組み状況を確認しているほか、その主管部門にて年次目標を定めて推進^{※5}しています。

※3 事業を通じてSDGs達成への貢献の推進状況については、下記をご覧ください。
<https://corporate.jp.sharp/eco/sdgs/#anc03>
※4 2020年度SER施策については、下記にてご覧いただけます。
<https://corporate.jp.sharp/eco/management/#anc02>
※5 目標と実績については下記サステナビリティサイトの「ガバナンス」の各項目のページにて開示しています。
<https://corporate.jp.sharp/eco/governance/>

ESGインデックスの状況

2021年9月現在、シャープは以下のインデックスに採用されています。

・FTSE4Good Developed Index ・FTSE Blossom Japan Index ・S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数



FTSE4Good



FTSE Blossom Japan



・MSCI ESG Leaders Indexes



THE INCLUSION OF Sharp Corporation IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF Sharp Corporation BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.